

令和 4 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和 4 年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第 6 学年 (国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第 3 学年 (国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 130 人

② 数学 130 人

③ 理科 130 人

5 留意事項

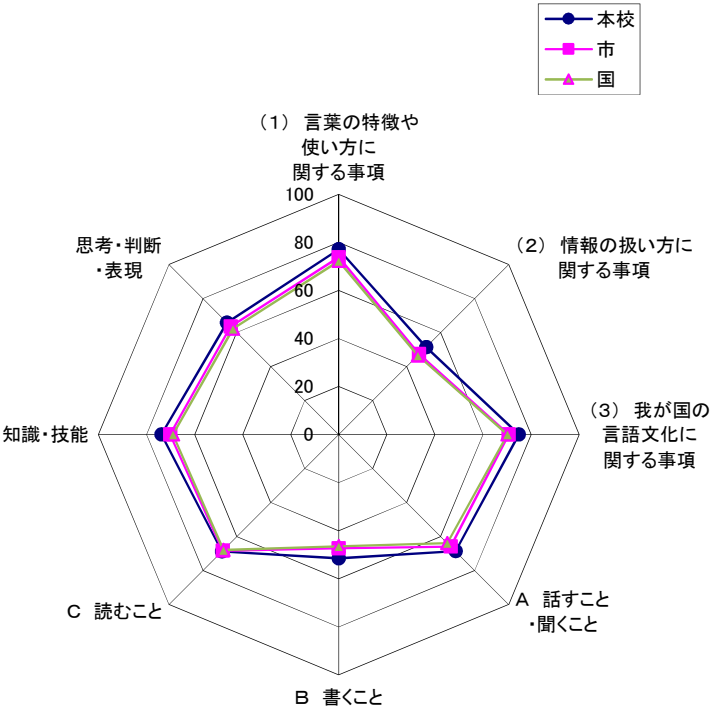
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	77.1	73.8	72.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	51.5	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.9	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	68.7	65.9	63.9
	B 書くこと	51.5	47.3	46.5
	C 読むこと	68.8	68.3	67.9
観点	知識・技能	73.8	70.2	69.0
	思考・判断・表現	65.9	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

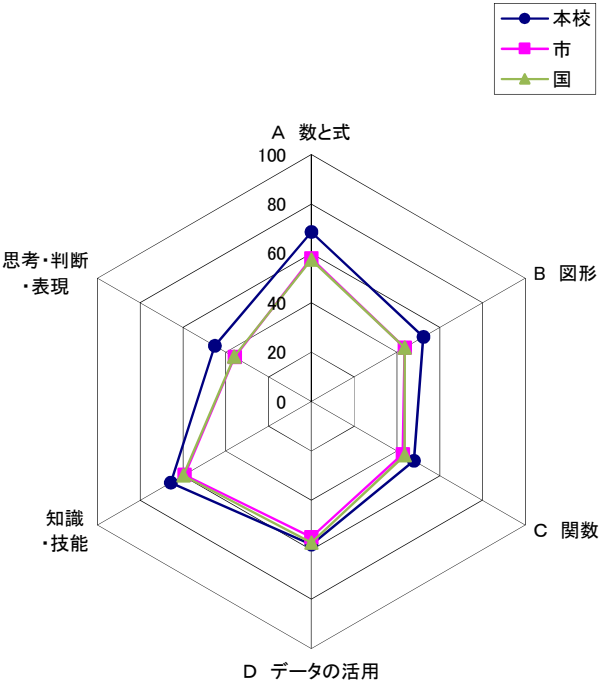
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	正答率は国を4.9ポイント、市を3.3ポイント上回っている。 ○表現技法や表現の工夫に関する問題では、国を約10ポイント上回っている。 ●語句、文法、意味に関しては、国や県を3.5ポイント以下の上回りに留まる問題があった。	・表現に関する技法や工夫については、登場するたびに話題として取り上げていくことで、定着しやすくなるため、今後とも折に触れて取り上げていく。 ・語句、語の意味については、不確かな部分が生徒によって異なるため、適宜練習を促すとともに、文法については、苦手意識を持ちやすい内容で反復して理解できるよう指導する。
(2) 情報の扱い方に関する事項	正答率は国を5.0ポイント、市を4.2ポイント上回っている。 ●自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く問題の正答率は51.5%で、国や県を上回っているものの、6.2%は正答の条件を満たしているが解答に結び付いていなかった。	・自分の考えを、根拠を明確にして書く活動を、今後とも継続的に行っていく。 ・条件に従って書く練習や、前後の文脈から判断して適切な文章になるような課題を示すなど、様々な視点から文章を適切に記述できる力を養っていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	正答率は国を4.7ポイント、市を4.2ポイント上回っている。 ○行書の読みやすい書き方の理解についての問題では93.1%、行書とそれに調和した仮名の書き方の理解についての問題では85.4%と正答率が高い。 ●行書の特徴の理解についての問題の正答率46.1%で、国や県を上回っているものの、半数が理解できていない。	・書写については、今後も、ポイントを押さえてのびのびと書くこと、特に行書は特徴を踏まえてすらすらと楽しく書くことを中心に指導する。 ・要点を理解して書く楽しみを味わいながら、文字の特徴やバランスについて理解を深める学習を展開していく。
A 話すこと・聞くこと	正答率は国を4.8ポイント、市を2.8ポイント上回っている。 ○聞き手の興味・関心などを考慮して表現を工夫する問題の正答率は79.2%で、国を4.5ポイント、県を6.0ポイント上回っている。 ●論理の展開などについて注意して聞く問題の正答率は63.8%とこの領域の問題の中で一番低く、選択肢の2つの情報のうち、片方のみを選ぶ誤答が見られた。	・表現技法や、表現の工夫については、登場するたび気付けるようにすることで、正確に理解できるようになり、自らの表現にも生かせることから、今後とも継続して指導する。 ・述べている内容について、正しく述べているか、どのような展開で述べているかについても理解を深められるような指導を心掛ける。
B 書くこと	正答率は国を5.0ポイント、市を4.2ポイント上回っている。 ●この領域に関する問題は1問であったことから、上記(2)の状況を踏まえると、根拠を明確にして書く記述式の問題に対して苦手としている傾向にある。	・自分の考えを根拠を明確にして書く活動を、今後とも継続的に行っていく。 ・条件に従って書く練習や、前後の文脈から判断して適切な文章になるような課題を示すなど、様々な視点から文章を適切に記述できるよう指導する。
C 読むこと	正答率は国を0.9ポイント、市を0.5ポイント上回っている。 ○場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する問題の正答率は79.2%と高い。 ●場面の展開や登場人物の心情の変化などについて描写を基に捉える問題の正答率は58.5%で、国を3.5ポイント、県を2.3ポイント下回っている。	・話の内容を取り上げて理解した内容を記述する学習を、今後とも継続して行い、場面と場面、場面と描写、登場人物の心情などを結び付けて、内容を解釈できるよう指導する。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	68.6	58.0	57.4
	B 図形	52.3	43.6	43.6
	C 関数	47.9	42.7	43.6
	D データの活用	57.9	54.9	57.1
観点	知識・技能	65.7	59.3	59.9
	思考・判断・表現	45.2	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

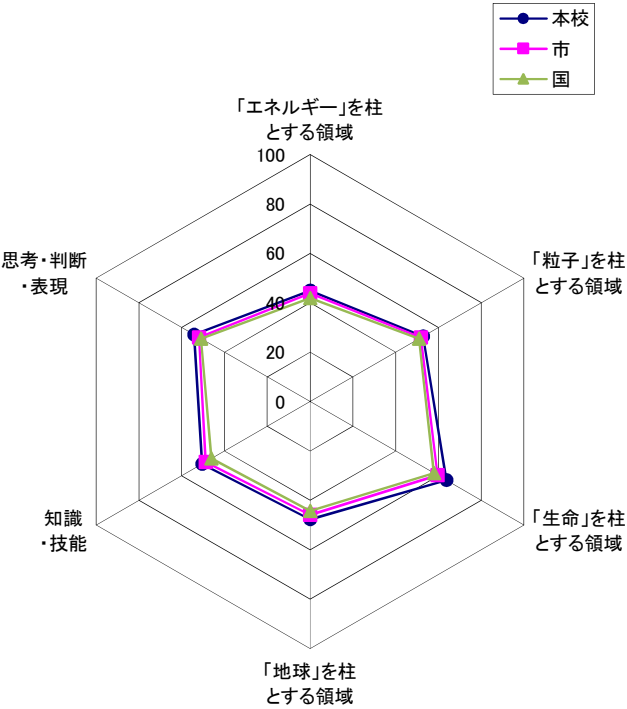
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	正答率は、国を11.2ポイント、市を10.6ポイント上回っている。 ○素因数分解する問題や連立方程式を解く問題では、国を10ポイント程度、県を10ポイント以上大きく上回っている。 ●式を変形したり、式の意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題では、無回答率も低く、国や県を10ポイント以上大きく上回っているが、正答率は50.0%と半数が誤答であった。	・授業の最初に計算の小テストを定期的に取り入れてて復習の機会を作り、知識・技能の確実な定着を図る。
B 図形	正答率は、国・市ともに8.7ポイント上回っている。 ○証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を書く問題では、国や県を10ポイント以上上回っている。 ●筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題では、無回答率が国や県よりも10ポイント以上下回っており、記述式の問題にも粘り強く解答しているが、正答率は19.2%と低い。	・図形の証明に関する記述力を高めるために、穴埋め形式を取り入れるなど支援の方法を工夫する。 ・いろいろな問題に触れる機会を作り、様々な図形の見方や思考の方法を身に付けさせるよう、指導を工夫する。
C 関数	正答率は、国を4.3ポイント、市を5.2ポイント上回っている。 ○関数を用いて事象を数学的に解釈し、問題の解決方法を説明する問題では、国や県を10ポイント以上上回っている。 ●この領域の正答率は47.9%で、4領域の中で一番低い。	・比例・反比例、1次関数、2乗に比例する関数の、表、式、グラフを比較しながらそれぞれの特徴をとらえられるよう、指導を工夫する。
D データの活用	正答率は、国を0.8ポイント、市を3.0ポイント上回っている。 ○2つのヒストグラムからデータの傾向を捉えて1つを選択し、その判断の理由を説明する問題では、無回答率が0%で正答率も県を5.7ポイント上回っている。 ●多数回の試行によって得られる確率を求める問題では、正答率は82.3%と高いが、国や県を1ポイント程度下回っている。	・計算では求められない確率の求め方にも自信をもって答えられるように、導入で多数回の試行を生徒に行わせるなど、生徒の印象に残るような指導ができるよう工夫する。 ・ヒストグラムや箱ひげ図などが用いられている場面を、身の回りで見つける活動などを取り入れ、データに親しめる指導を工夫する。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	44.9	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	52.9	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	63.7	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	47.7	45.9	44.3
観点	知識・技能	50.5	48.8	46.1
	思考・判断・表現	54.2	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	正答率は国を3.0ポイント、県を1.1ポイント上回っている。 ○考察の妥当性を高めるために測定範囲と刻み幅を調整し、実験を検討して改善できる問題では、国や県を6ポイント程度上回っている。 ●フックの法則のグラフ化において、国や県を1ポイント下回っている。 ●おもりに働く重力と釣り合う力の矢印を選択し、その力について説明する問題の正答率は22.3%で、力を表すベクトルの意味をよく理解していない生徒が多い。	・数値の変化の度合いも見極めて、変化させたものを横軸に、変化するものを縦軸にしてグラフ化する機会を多く設ける。 ・矢印の大きさと方向が力を表すベクトルについて、具体操作的を用いた、分かりやすい指導方法の工夫をする。 ・AI型個別指導ドリルを活用した学習を効果的に取り入れる。
「粒子」を柱とする領域	正答率は国を2.0ポイント、県を1.1ポイント上回っている。 ○分子のモデルで表した図を基に水素の燃焼を化学式で表す問題では、国を9.1ポイント、県を9.8ポイント上回っている。 ●液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を問う問題では、県を5.1ポイント下回っている。	・液体が気体に状態変化することによって温度が下がる現象について、身近な場面を想定させながら理解できるような指導方法を工夫する。 ・AI型個別指導ドリルを活用した学習を宿題とするなど、学習内容の定着に向け、効果的に取り入れる。
「生命」を柱とする領域	正答率は国を5.8ポイント、県を4.1ポイント上回っている。 ○予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備について考える問題では、国を9.5ポイント、県を8.4ポイント上回っている。 ●生命Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断することができるかを問う問題の正答率は54.6%に留まっている。	・基礎的な学習内容が定着していない生徒に、学校独自に作った一問一答形式の問題を繰り返し学習させる。
「地球」を柱とする領域	正答率は国を3.2ポイント、県を1.8ポイント上回っている。 ○気温気圧温度の変化を読み取り雲の種類と関連付けて適切な天気図を選択する問題では、国を5.4ポイント、県を4.7ポイント上回っている。 ○玄武岩の露頭で化石が観察できるか否かを問う問題では、国を9.7ポイント、県を5.9ポイント上回っている。 ●上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について考える問題では、国・県を0.3ポイントほど下回っている。	・データの読み方、利用法、全体を的確に把握する力などの育成を目指して、グラフを用いた学習内容があるときに、繰り返し丁寧に指導する。 ・基礎的な学習内容が定着していない生徒に、学校独自に作った一問一答形式の問題を繰り返し学習させる。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の回答が国を18.7ポイント、県を16.2ポイント上回っている。全学年保護者会で情報端末の使い方を話したり、「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」に基づく全市一斉に取り組んでいる「ノースマホ・ノーゲームデー」を、生徒支援部会が中心となり計画的に生徒・保護者に啓蒙した成果だと思われる。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の回答が国を18ポイント、県を14.1ポイント上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の回答や「家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか」の回答で、先生と回答するポイントが国・県のポイントを上回っている。今後も感染症対策のために授業を進める際に制限がある中、タブレット端末を活用した授業を工夫したり、AIDリルを家庭学習の課題を計画的に取り組ませて学習状況を分析指導したりするなど、生徒と教員のやり取りをICT機器を通して適切に行うことを継続する。

○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがありますか」の回答が国を20.3ポイント、県を15ポイント上回っている。2学年の社会体験学習や『宇都宮学』における課題解決学習を通して、身近な地域に関心をもっていることがうかがえる。今後も地域のことを真剣に考えることのできる公民の育成を、全教科・領域で継続して指導していく。

●「理科の勉強は好きですか」の回答が国を4.7ポイント、県を7.4ポイント下回っている。「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての回答は国を1.9ポイント、県を4.3ポイント下回っていることも関連が考えられる。各教科、宿題など決められたことに取り組むことはできるが、他の教科や日常生活の中で学習したことを応用したり関連付けたりすることができるような指導や体験学習を工夫して行っていく。

宇都宮市立瑞穂野中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着を目指した指導の充実	・定期的にAIDリルの課題を設定し、学級担任が学習状況の進捗を把握して個々の生徒の学習支援を行う。 ・自主学習ノートを活用し、家庭学習の習慣を身に付ける	「学校の授業以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の特に「土曜日や日曜日など学校が休みに日」では、「全くしない」の回答が県を2.3ポイント、国を6.5ポイント下回った。平日も休日も家庭学習の習慣が定着していると考えられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科の学習において、学習したことを普段の生活の中で活用できないかと考えることについての回答が50%を満たしていない。	・各教科の学習を、他の教科の学習や日常生活の中で活用できる能力を育成する。	・課題解決の授業において、他教科の内容を含め多面的に考察して自分の考えをまとめる機会を増やしたり工夫したりするなど、指導の工夫をする。